

第2回カーボンニュートラル加速化に向けた講演会 開催報告

日時 2025年1月9日（木） 15：00～16：45

場所 ALVE 2階多目的ホール

出席者 108名



共催 秋田風力発電コンソーシアム「秋田風作戦」
あきた次世代エネルギーコンソーシアム（ANEC）

内容 テーマ 「次世代モビリティと再生可能エネルギーを利用した
秋田経済の活性化策」
～業界変革の舞台はEVシフトから「AIシフト」へ～

ゲスト (株)伊藤忠総研 産業調査センター 主席研究員
エグゼクティブ・フェロー 深尾 三四郎 氏

➤ ポイント①

エンジン搭載車から電気自動車に置き換わる「EVシフト」

- 脱炭素の最大の目的は雇用創出と新経済圏を作り出すこと。脱炭素やカーボンニュートラルは地方創生・地域経済の活性化の手段として位置づけられ、これを遂行する取組みで最も重要なのがEVシフトである。
- EVシフトの本質は大きく2つ。
 - (1)エネルギー産業の革新としての現象
自動車産業の技術発展の観点よりも広く、再エネを中心としたエネルギー産業の変革の観点ではEVシフトは必然の現象。
 - (2)イノベーション創出による新経済圏構築
イノベーションの一つとしてEVシフトがあり、新経済圏の構築と雇用創出を目的とし、政策立案側がデザインしている。
- 脱炭素等のトレンドは、ヨーロッパ人が考案しルールメイキングしている。ある種の資源獲得競争ではあるが、収益に繋がらなければ継続は難しいため、受け身にならず攻めの姿勢で官民が連携を強化し考えるという発想も重要である。

➤ ポイント②

脱中国・インドシフトの加速

- ・ 中国の経済成長は鈍化しており、インドを含めたグローバルサウスでのEV・脱炭素ビジネスの獲得競争が起きている。
- ・ 新興国等ではEVシフトや脱炭素において、既存の技術やインフラを飛び越えて最新技術が導入され急速に発展を遂げており、背景には共通して安価な再生可能エネルギーの存在がある。
- ・ 例えば、エチオピアでは、水力発電を中心とした再生可能エネルギーにより、エネルギーコストが非常に安価で推移している。これにより、EVシフトが急速に進んでおり、中国製の最新EV車両が多く稼働している。

➤ ポイント③

AIの台頭と自動運転車を中心としたSDV（ソフトウェア定義車）

- ・ AIの技術発展は著しく、自動運転車のライドシェアであるロボットタクシーが昨年10月に発表された。
- ・ 新車は生産されてから廃車になるまで、実稼働が5%程度で、95%は駐車等による不稼働時間とされてきたが、ロボットタクシーの開発により不稼働時間を収益機会に変換することができる。
- ・ 人とAIが共存する自動運転社会は、少子高齢化・人口減少が進む地方経済の活性化を促す。
- ・ 人口減少先進地である秋田だからこそ、AIや自動運転社会に目を向け、再生可能エネルギーを選択と集中で振り分け、そこから新しいアプリケーションを作りイニシアチブをとる取組みを議論するのも一つではないか。

